

【学位論文審査の要旨】

1. 論文題名

クライアントと作業療法士の協業関係尺度(Collaborative relationship scale between clients and occupational therapists, CRS)の尺度特性の検討

2. 審査所見

1) 論文審査

主論文は、クライアントと作業療法士の協業関係尺度の完成版の尺度特性を論じたものである。また副論文は、その基盤となった試作版尺度の作成過程を明らかにしたものと、本尺度の臨床的運用に必要な基礎研究であった。

研究テーマに関する文献レビューから研究目的が明確化されていた。また、研究デザインは COSMIN に準拠するなど適切に選択されていた。データに対して、項目反応理論を中心とした解析が適切になされ、倫理的配慮にも問題がなかった。結果では、作成したチェックリストの構造的妥当性や併存的妥当性が確かめられ、その汎用性が示された。これらには新規性と作業療法へのレリバンスが認められた。

考察をもう少し深める必要があること等の課題もあるが、博士論文としてのレベルには十分達していると判断した。

2) 最終試験

質疑応答では、「クライアントと作業療法士の協業を考える上で、クライアントの視点が必要ではないか」との質問に、「現状では不十分であると認識し、今後、クライアント側の認識も取り入れて、チェックリストを改定していきたい」と答える等、質問に適切に答えるとともにアドバイスにも真摯に耳を傾けていた。また、プレゼンテーション及びコミュニケーション能力ともに十分で、関連した領域の知見についても深く理解していると考えられた。

3. ディプロマ・ポリシーに基づく評価

学位論文審査基準の項目（博士）	評価（合・否）
作業療法の発展に寄与する内容である	合
研究目的が明確で、適切な研究方法が選択されている	合
新規性があり、論理的に記述されている	合
十分な基礎学力と専門的知識を有している	合
適切な倫理的配慮がなされている	合
主・副論文が査読付き学術原著論文として公表・公表確定	合
十分な語学力やコミュニケーション能力を有している	合

4. 審査結果

本論文が博士論文に値し、申請者が博士(作業療法学)の学位を授与するにふさわしい専門的知識と研究能力を備えていると判断し、合格とした。